

# 利用ルールの順守啓発

## 陸前高田 アマ無線ガイダンス局 で初運用

6月1日の「電波の日」にちなみ、(株)日本アマチュア無線連盟(JARL)岩手県支部(野田尚紀支部長、会員880人)は同日、陸前高田市高田町のキャピタルホテル1000駐車場でアマチュアガイダンス局の運用を行った。県内では3年半ぶり、同市では初となるもので、会員たちはアマチュア無線

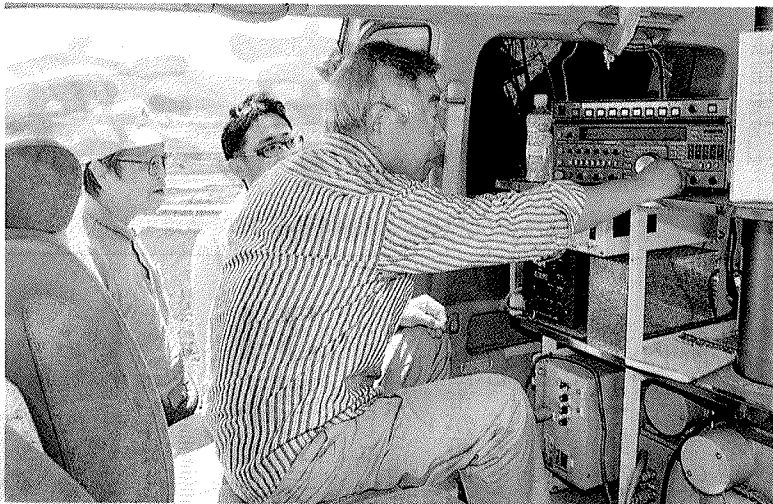
が正しく使われるよう違法局に対して注意を促した。

アマチュアガイダンス局とは、連盟が開設する特別業務のための局。それぞれの支部の

監査指導委員会が持ち回りて運用し、利用者への注意喚起、交信は正を促す目的でアナウンスを行う。

アマチュア無線は本来、個人が私的に楽しむための技術的研究を行うためのもので、事業者などが業務で利用することは許されていない。しかし震災後は沿岸被災地に県内外から訪れている業者などが、正規免許を得ずに

違法局に対しアナウンスを行うJARL岩手県支部の会員たち(高田町)



違法局に対しアナウンスを行うJARL岩手県支部の会員たち(高田町)

無線電波を発したり、コールサインを用いないなど、不正運用を行っているケースが見られるという。

こうしたモラル無視の行為は、ほかの通信に混信などの妨害を加えることにもつながる。このため同支部は

今回初めて同市でガイダンス局を運用。違法局を見つけたら、録音された警告アナウンスを送った。

同日は午前中だけで10件ほどのアナウンスを行ったといい、一帯でたびたび誤った運用がなされている実態が浮き彫りに。運用の傍らには短波帯の電波を使ったデモンストレーションも行い、1対多数で全国と交信できる電波の有用性もPRした。

違法局に対しアナウンスを行うJARL岩手県支部の会員たち(高田町)

野田支部長(46)は「震災時はアマチュア無線で人命救助を呼びかけるといったケースもあった。本来に必要な時に混信などの妨げとなることのないよう運用を訴えていた。」

### 「電波の日」無線使用正しく

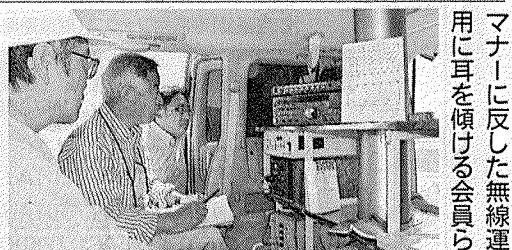
#### アマ県支部 陸前高田で啓発

「電波の日」の1日、割り振られたコールサインを言わないなど不適切な運用を改めるようアナウンス。同日は5時間で12局を注した。

沿岸被災地では、県内外を問わず多くの復興関連業者が工事に力を注ぐ一方、仕事に関わる連絡を業務用無線でなく、設備が安価で済むアマチュア無線で行うなど、マナーに反した運用が増えている。

アマチュア無線は東日本大震災当時、人命救助に活用されるなど、有事の際の有用性が注目されている。野田支部長は「マナーが守られないと混信し、いざというとき役に立たなくなる。適切な運用を呼び掛けた」と

話した。



マナーに反した無線運用に耳を傾ける会員ら